
戦場の龍騎兵

むーむー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

戦場の龍騎兵

【Nコード】

N1127H

【作者名】

むーむー

【あらすじ】

イスマイル帝国による、ハイランス王国への侵攻。戦乱の波が、少年と少女の運命を押し流してしまった。12年の後、再び、少年と少女の道が交わる時、歴史は大きく動き始める。

i n t r o d u c t i o n (前書き)

本来ならば、一本の連載に集中すべきなのですが、自分の中で、バランスを取る為に、並行して連載を試みようと思います。更新が、輪をかけて遅いかもかもしれませんが、もし宜しければ、お付き合い下さい。

introduction

彼女と、約束したんだ、必ず、僕が守るって……。でも、その約束は、果たすことが出来なかった。多分、その時だったんだ。自分が子供であると、気付かされたのは。

目に見える物だけが、世界の全てだと思っていた。自分には、何でも出来るって、大きな勘違いをしていた。だから、出来もしない約束をしてしまった。

世界は僕達に、牙を剥いた。
獰猛で荒々しい、時代の濁流が、まだ幼かった僕自身の運命を、押し流してしまった。

ひどく体が熱かった。

立ち上がるうとしたが、少しでも体を動かそうとすると、激しい痛みが、あちこちから襲ってきた。

辺りは、火の海になっている。視界に映ったものは、沈みかけた夕日の色に似た、赤。

このまま、死ぬのか……。

「誰か、いるのか？」

男の叫ぶ声が、聞こえた。

痛みをこらえながら、声のする方へ、体を引きずっていた。

まだ、死にたくない、死ぬわけにはいかない……。

助けを呼ぼうとしたが、充満する煙のせいで、思いは声にならなかった。

それでも、目の前にか細く垂れ下がる、生への命綱を必死に手繰り寄せた。

「おい、大丈夫か!？」

さつき、聞こえてきた声だった。

「隊長！ 子供です。まだ、息があるみたいだ」

そのまま、男に担ぎ上げられた。

「坊主、死ぬんじゃないぞ」

「……」

「何だつて？」

「……坊主じゃ、ない」

声を出す度に、喉が焼けるように熱く感じられた。

「それだけ言えりゃ、大丈夫だな。名前は？」

「あ、アルヴァーン……」

「そうか、じゃあ、アルヴァーン。もう少しの辛抱だ。我慢しろよ、男なんだから」ようやく助かったという安堵感のせいで、緊張が途切れた。

赤かった視界が急に暗くなり、そこで意識を完全に失った。

王国暦、488年。

イスマイル帝国による、侵略行為により、ハイランス王国北西部の、小さな寒村は、地図上からその姿を消した。

だが、一人の少年が助け出されていた。大河に落ちる一滴の雫のように、ごく小さな出来事に思われたが、少年の命が救われたことが、後の歴史に大きな影響を与えることになる。

王国暦が、消滅する年の、出来事であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1127h/>

戦場の龍騎兵

2010年10月8日14時56分発行